

第五章

結論と今後の課題

A. 結論

データ分析の結果に基づき、次のように結論を述べる。

- 1) メタ認知ストラテジーを用いる教授をした後、学習者の読解力が向上する。
- 2) 一般に、メタ認知ストラテジーを用いる教授した学習者は読解教授及びメタ認知ストラテジーを用いる教授に対して積極的な態度を示す。
- 3) 学習者の多くは、メタ認知ストラテジーを使用する読解活動はかなり役に立つということである。メタ認知ストラテジーを用いる教授活動や学習者の関与は一般的に良く実行するということである。学習者は読解学習を行う時積極的に議論し教材を理解することで教授のプロセスに関与する。

B. 今後の課題

上記の結論に基づき、筆者は、今後の課題として次のようないくつかのテーマを勧める。

- 1) メタ認知ストラテジーを用いる教授に対する学習者の積極的な態度は、教授が学習者の好ましいことを教授のモデルとして使用することができることを示す。つまり、メタ認知ストラテジーを用いる教授は、読解教授で一つの教授の代替として使用することができる。
- 2) 多くの改善により、メタ認知ストラテジーを用いる教授の実現がうまく行くことができるように、学習過程で必要な指示が必要とする。
- 3) メタ認知ストラテジーを用いる教授は、教師と生徒の両方に非常に慣れないと言うことであり、そこでこのような教授は社会化することが必要である。
- 4) 次の研究者は異なる場面に関するメタ認知ストラテジーを用いる教授について研究を行う必要がある。